



4月23日(水) 今年のわくわく園の研修テーマは「**自己肯定感の醸成**」

「**自己肯定感**」て何? ～自己肯定感が低い子どもは?～

「初めて取り組むこと」「難しいと感じること」はすぐにあきらめる、「どうせダメだから」とチャレンジしない、失敗すると「自分のせいだ」と考えてしまう。

子どもの自己肯定感を高めるには、ありのままの姿を受け入れ、失敗を否定せず前向きな言葉をかけ、成功体験を積み重ねる工夫が大切です。具体的には、子どもが頑張ったところを褒め、成長を認め、意見を求め、選択する機会を与え、そして子どもの話に耳を傾けることが効果的です。

こども園では、先生方全員で子どもたちに自己肯定感を醸成し、自信をもって行動し、新たなことに挑戦する力や困難に立ち向かう力、良好な人間関係を築くこどもの育成を目指すことにしました。これには園だけでなく、家庭の協力も必要です。

自己肯定感は、3才頃までに形成の土台が築かれ、10歳前後までにある程度決まると考えられています。

～自己肯定感は、人間の成長にとっても大切なものです～

4月24日(木) **4歳児の預かりお便りから** ～抜粋～

4歳児になると手や指先の動きがスムーズになり、細かい作業ができるようになります。指先を動かすことで脳の働きが活性化されます。そこで4歳児では、折り紙やハサミを使った活動を意識して取り入れていきます。

▶運筆は週2回、折り紙やハサミも定期的に取り組みます。内容は「あずかりカレンダー」でお知らせします。

▶運動機能や理解力といった面でも向上していく時期です。園庭が使用できるようになりましたら転がしドッジボールなどにも挑戦していきます。

▶記憶力、色や形の識別能力を高めるのに最適な「万国旗」にも触れながら、今年度後半には「国旗かるた」を楽しめるようになれるといいな～と思っています。

ピアニストは長生きだそうです。手先指先を使う折り紙や刺しゅうなどは、脳を活性化して、ボケ防止にもなるようです。パソコンを打つこともボケ防止になるか?それはまだ分かりません。

***ボタンやファスナーを子どもにさせるのもいいようです。**



4月30日(水)



早期発見・早期治療は、治療効果の向上、体への負担軽減、経済的負担の軽減、生活の質の維持など、多岐にわたります。早期発見により治癒率が向上し、治療後の生活の質も高まります。早期発見・早期治療は、病気ではありません。子どもの問題行動やいじめ・不登校も同じです。

問題行動がエスカレートしないために重要な取り組みです。早期発見により、問題行動が深刻化する前に適切な支援を提供でき、子どもたちの心身の健康を守ることができます。早期治療は、問題行動を改善し、子どもたちがより良く成長するための土台を築きます。「ちょっと様子を見ますか?」はよくありません。

こども園と家庭の連携が大事

こども園（学校）では、先生方が問題行動の早期発見に努めています。家庭では、子どもの様子を注意深く観察し、気になる兆候があれば（些細なことでも）すぐに担任に相談するようにしてください。これが「face to face」「共育」です。子どものことを一番知っているのは、保護者さんです。

5月1日（木）童謡「こいのぼり」の歌詞には、「大きい真鯉はお父さん、小さい緋鯉は、子どもたち…」とあるだけで、お母さんが表現されていません。作られた当時は、女性の立場が低かったからだと思われます。これは大問題です。緋鯉が「お母さん」を指すようになったのは戦後のことです。*子どもたちの絵は、緋鯉が中心です。



5月2日（金）

味噌・醤油・塩ラーメン

歳を取るとこってり系より、あっさり系のラーメンが好きになります。「昭和の日」にラーメン屋さんに行きました。私は塩、妻は醤油にしました。隣に若い夫婦と4・5歳くらいの男の子が座っていました。お父さんは、味噌の大盛をお母さんは醤油、そして、小鉢を一つ注文しました。お父さんが、味噌ラーメンとチャーシュー1枚を子どもの小鉢によそってあげると、うれしそうに食べ始めました。食べ終わると今度は、お母さんが塩ラーメンを分けてあげて、「どっちがおいしい？」と聞くと、「どっちも、おいしい」と答えました。「じゃ、今度は塩ラーメンも食べてみようか？」とお母さんが言いました。「いい家族だなあ〜」と感心しました。

子どもの「考える」とは、比べて判断することです。いろいろなことを経験することが大事です。「好きなモノ食べなさい」と言っても、いつもお子様ランチでは、自分は何が好きなのか分かりません。最近の生成AIは、データ量が増えたことでより正確な判断ができるようになりました。連休は、いろいろな実体験を積んでください。

5月7日（水）「園長先生、動物園に行ってきたよ」

「どんな動物がいたの?」「う〜んとね。臭かったよ!」

実物を見て、映像や図鑑で見る動物と違って五感で動物を体験し、独特の臭いを感じたのです。なるほど、これが実体験かと感心しました。

子どものころ、連休とか夏休みには、よく水族館（昔、網走にありました）とか動物園に連れて行ってもらいました。子どもができる小さいころの定番は、やっぱり動物園でした。孫ができて、連休は、親が忙しくてどこにも行かないというので、動物園に連れて行ったことがありました。

帰りの車の中で、「楽しかったかい?」と聞くと、「うん、今度はパパとママと行きたい。」と言いました。

動物園もいいけれど、家族で一緒に楽しむことが一番だということです。学校の駐車場でお父さんと自転車の練習をしている子がいました。連休ならではの、過ごし方だと思いました。



5月8日（木）

桜前線も終着を迎えました。訓子府の桜の名所、レクリエーション公園の桜は、昨日の段階で7〜8分咲きでしたので、ちょうど週末が見頃だと思います。ご家族でお花見に出かけてはいかがでしょうか？桜の名所の穴場スポットです。

今日のお集まり会で、チューリップと園歌を唄いました。🎵咲いた、咲いたチューリップの花が…、園歌3番の歌詞、🎵花って素敵だね 色とりどりに咲きほこり 心の中にも花が咲く…

「お散歩に行ったら、どんな花が咲いていますか？」と聞くと、「さくら、つつじ、たんぽぽ、チューリップ、知らない花…？」他にもコブシ、モクレン、梅、桃、水仙など、オホーツクは今、花の季節を迎えました。

ところが花は自分のことをきれいだとは思っていません。「だって、目がないもん」と言いました。「どうして、花はきれいなのでしょうかな？」それは、きれいだと感じる心があるからです。



5月9日(金) 昨日は、学校運営委員会こども園部会、育友会役員会、運動会運営協力会議と三役の方は3つの会議がありました。お疲れ様でした。3役になると大変!と思われがちですが、保護者の代表として園の運営に参画できます。園からもいろいろなことを相談させていただきます。皆さんの意見を大事にしていきたいと思います。

役員会では、専門部会(文化部・厚生部・レク部)を決めました。役員名簿には、お母さんの名前になっていても、その時の都合で、お家の方が代わってお手伝いいただいてもかまいません。特に運動会のお手伝いは、お父さん方に参加いただけると大変助かります。よろしくお願いします。

5月12日(月)

5月10・11日週末見頃を迎えたレクリエーション公園の桜でしたが、残念ながら雨でした。それでも雨の中、頂上の駐車場には、車が3台停まっていて、写真を撮る人がいました。お花見ができなかった人のために、今日のお便りは、花の写真です。



桜は、日本の国花、そして日本人の品格を表すシンボルです。

桜は人生の節目とも深くかかわっています。卒業や入学、新たな出発を迎える春に咲く桜は、「出会い」を象徴する花でもあります。しかし、連休明けは、何となく体がだるい、気力が出ないなど、5月病になる人が増えます。季節の花の美しさを感じる心の余裕が必要です。*園周辺で、たんぽぽ、チューリップ、スイセン、モクレンを見つけました。



5月13日(火)

「お母さんの不思議な力」

5月11日(日)「**母の日**」何かいいことありましたか?

お母さんの不思議な力は、子どもの心の成長にとって不可欠なものです。子どもの心を癒し、成長を促す特別な影響力を持っています。

それはお母さんの愛と温かさ、そして、子ども理解と共感から生まれます。子どもが傷ついたり、落ち込んだりしたとき、お母さんの抱っこや言葉によ

って安心感を与え、心を癒すのです。お母さんの愛情は、子どもの自信や自己肯定感を育み、成長をサポートします。

どこからそんな力が生まれるのでしょうか?

それは元々持っている本能なのだと思います。それをさらに磨くことが大事です。「母の日」は、そんなお母さんに感謝する日です。園で作った赤いカーネーションを金曜日持ち帰りましたが、何かコメントはありましたか?

カーネーションの花言葉は、全体として「無垢で深い愛」、赤は「母への愛」、ピンクは「感謝」、白は「純潔な愛」です。来月は「父の日」ですが、関連商品の売り上げは「母の日」の半分以下だそうです。



5月14日(水) 親の笑顔が子どもの笑顔をつくる

文科省作成 北海道版「家庭教育手帳より」

子育てで大事なものは、親の心の安定です。親のイライラは子どもにも伝わっていくものです。大事な子育てだからこそ自分を大事に、心を健康に保つことが大切です。夫婦で助け合ったり、子育てサポートや子育て支援センターといった育児仲間や仕組みを活用したりして、リフレッシュする時間をつくることです。親が幸せで笑顔でいる家庭でこそ、子どもも幸せを感じられます。

《イライラを感じる》 仕事をしている母親＝18%
専業主婦＝32% *意外な結果です。

子どもたちの一番の願いは? 「あなたの家庭に望むものがあるか」と子どもたち

に聞いたところ、どの年代の子どもでも一番多かった答えは「家族のみんなが楽しく過ごす」でした。当たり前のことを子どもたちが願わざるを得ない現実を親として真剣に受け止めたいものです。必要なモノさえ与えてさえいれば子どもは育つ、と思えた時代もありましたが、今は家族が意識的に協力し合わなければなかなか得られません。子どもにとって心安らぐ居場所になっているかが大事です。

*玄関に時計が付きまして。



5月15日(木) 朝の居場所 読売新聞 5月10日

子ども家庭庁は9日、全国の市町村のうち、子どもが朝に過ごせる居場所を確保する施設を実施したり、検討したりしているのはわずか約3%だったとの調査結果を発表しました。

小学生になった子どもの朝夕の預け先が見つからず、保護者の仕事と子育ての両立が難しくなる。放課後は児童センターがあるが、各市町村では、朝の時間帯に受け入れる居場所運営に従事する人材の確保が難しい。

オランダやドイツでは、国が主導し、親の出勤を遅らせるなど、企業に労働時間を柔軟化させることで問題を解決しています。居場所をつくるよりも政府主導で働き方を変えていくべき、と日本女子大：大沢真知子名誉教授は言っています。時代に合った新しい働き方のシステム作りが必要です。

5月16日(金) 家庭訪問の反省 これからも続ける?

家庭訪問の廃止は、全国的に進んでいます。特にコロナ以降、家庭訪問をやめて個人面談に代わっている学校がほとんどです。こども園は、どうするか、先生方で話し合いました。～確かに、共働きの保護者の負担、先生方の負担はあるけれども、小中学校と違って、こども園は家庭との連携が何より大事であること、ホームアンドアウェーではないけれども、園に来てもらってアウェーで話すのと保護者のホームで話すのでは、ホームの方がずっと話しやすいという保護者さんもあるのも確かです。いろいろな話を聞くことができ、家庭訪問の意義はある。～という意見が多くありました。保護者の皆さんには、ご負担をお掛けすることになりますので、育友会三役の皆さんのご意見も伺い今後の家庭訪問の在り方を検討していきます。

わくわく English (4・5歳児) 今回は、地域おこし協力隊のホナウドさんを招いて、母国ブラジルの話とポルトガル語を教えてくださいました。「訓子府がとても気に入っている」と言っていました。リンゴの絵を見せて「これは日本語で何と言いますか?」と聞くと、子どもたちは「Apple」と答えました。

花の苗 今年も小野元教育長さんから、5歳児さんにペチュニアの花の苗をいただきました。去年は八重でした。今年はどんな花が咲くか楽しみです。プランターに植えて、玄関前で大切に育てます。 *次回合本第3号は5月下旬を予定しています。

